

AUDIO VIDEO SHOW 2017 & Smart Home

ポーランドオーディオショー見学記

編集委員 森 芳久

今年も 11 月 17 日から 19 日の三日間、ポーランドの首都ワルシャワで AUDIO VIDEO SHOW 2017 & Smart Home が開催されました。今年第 21 回を迎えたこのショーは、今日ではヨーロッパのミュンヘンのハイエンドショーに次ぐ大きなオーディオショーとして年々活況を帯びています。会場で関係者と話をすれば、この国の販売店はもちろん、内外のオーディオメーカーからの注目が年々高まり、熱気を増しているのが良く判ります。既に冬を迎え寒いポーランドで、オーディオ界はその“最も熱い日”を迎えたのです。

今年からはその名称も AUDIO VIDEO SHOW 2017 & Smart Home と、新たに & Smart Home が付け加えられ、ホームオーディオにも注力する姿勢が見て取れます。昨年は諸事情から来ることが適いませんでした。二年振りに来てみると一昨年に比べその規模も、また入場者の数も確実に大きくなっていることを実感いたしました。事実、今年の出展者数は 150 を超え、個室部屋数 173 と仮設オープンブースが並ぶ 50 の共通広場が設けられています。入場者数は 3 日間のトータルで 14,116 人と昨年より約 20% も増加しています。ミュンヘンのハイエンドショー同様、ここでも入場者のカウントは厳重に監視され、その公表数字は信頼できるものと言えるでしょう。ショーのオーガナイザーの責任者に訊いたところ、この三年間でその規模も来場者も約 5 割増しとなったと笑顔で応えてくれました。これは、ポーランドの若者たちがスマートフォンやポータブル DAP で音楽を楽しむ習慣が定着し、さらに良い音を求めるようになってきたことが大きな要因と思えますが、この国の GDP が近年堅調に上昇していることも無縁ではないでしょう。確かにこの数年ポーランドの GDP は 5% ずつ増加し、スウェーデンに次ぐ世界第 24 位の地位まで上昇してきています。ちなみに、この国の総人口は約 3,800 万人(2016 年)です。

会場は、市内中心部の Hotel Radisson Blu Sobieski と Hotel Golden Tulip そして PGE NARODOWY (国立スタジアム) の三カ所で、国立スタジアムではその回廊を使ってアクセスしやすい部屋のレイアウトとなっていました。ホテルでのエレベーターを使っただけの上下階の移動や、狭い部屋でのサウンドデモよりも効率的で来場者や出展者からも好評のようでした。入場料は一日券 30PLN、三日間の通し券 45PLN です。(PLN はポーランド通貨の単位でズウォティ (złoty)、zł と表記します。1 PLN は約 31.3 円)

来場者に無料で配布されるショーのカタログもとても美しく、各出展者やショーの見所などが紹介され実用的かつ保存版としたいクオリティーのものです。またこのカタログに記載された会場マップには、純オーディオ、ビデオ、ヘッドホン・イヤホン、LP レコード (新品・中古品) の即売コーナー、技術講演会場、そして新たに加わったホームオーディオと、カテゴリー毎に色分け分類された実用的なもので、このカタログを手に興味のあるブースや試聴室を効率よく巡ることができます。市内の二つのホテルはハイエンドオーディオのブースで占められていましたが、国立スタジアムにはハイエンドオーディオだけでなく、あらゆるカテゴリーが集まって三会場の中では最も盛況でした。

会期中は 30 分毎に国立スタジアムと Hotel Radisson Blu Sobieski、Hotel Golden Tulip を往復する無料リムジンバスが運行し、この三つの会場の移動を助けてくれます。

特筆すべきは、このショーには若い人達や、若いカップルまた子供連れの家族などの来場者が多く、子供達が楽しめるような工夫がされていることです。熱心に音楽を聴く幼い子供の姿を眺めていると、この国のオーディオの将来が明るく見えてきます。

オーディオに携わる者の一人として、この子たちの輝いた眼を裏切ることのない製品を作りたいと心を新たにしました見学でした。

それでは、以下スナップ写真で少しだけ会場の熱気をお伝えいたします。



会場の Hotel Radisson Blu Sobieski



国立スタジアム PGE NARODOWY の入り口



会場前(国立スタジアム)入り口での行列



入場者は一人ひとりチケットの ID を読み込まれ、腕にテープを嵌められその数が計測される



MBL のブースでは同社のミドルクラスのコロナラインでのデモ、笑顔で振り向いているのは同社の国際営業部長 Antoiemo Furbur 氏



こちらも同じくドイツの Avandgarde Acoustic のトリオ、MBL とは対象的な音作りで人気を二分している



イタリアのアンプ設計の鬼才 Andrea Pivetta 氏が作り上げたマンモスアンプ、その名も Opera Only。最大出力 160,000W、重さ 1500 k g。前日からクレーンを使っでの搬入作業でやっと完成。Pivetta 氏によれば、これはまだ試作段階のものだそうだ。そして気になるお値段は 1,600.000 ユーロ。1W 当たり 100 ユーロは高いのか安いのか？残念ながらここでは音は聴けなかった



ポーランド屈指の高級オーディオ店 HI・TON のブースでの T+A のサウンドデモ。ポーランドではオーディオ販売店が輸入代理点を兼ねていることが普通で、大きなオーディオ店はそれぞれ海外ブランドの代理点となっている



ワルシャワ市の近くに製造工場を持つアメリカの MYTEK の DAC のデモ。社長の Michal Jurewicz 氏もポーランド人で当然ポーランドでも MYTEK 製品の人気は高い



ポーランドでも真空管アンプの人气が高く、チェコの KR アンプにも注目が集まっていた



Technics もポーランドで健闘、しかし今回は展示がメインで音をじっくり聴ける環境でなかったのが残念



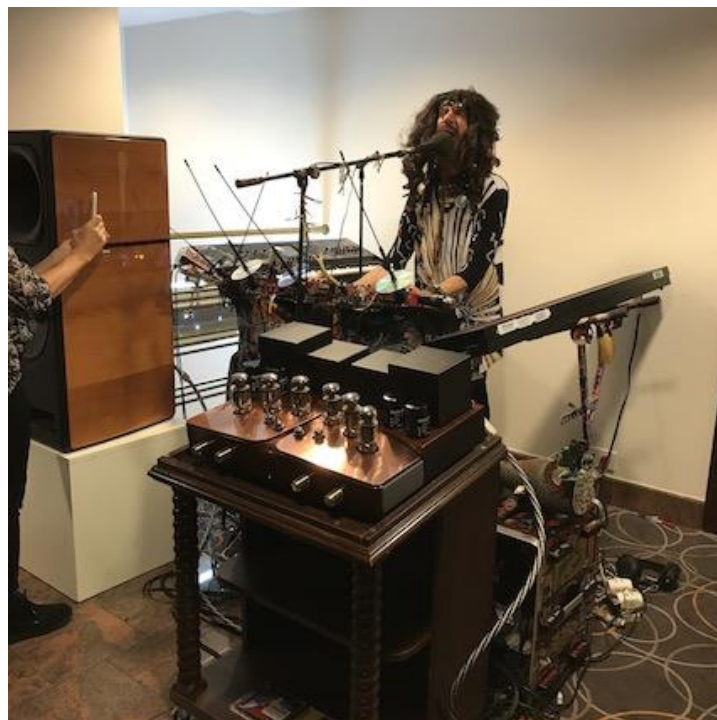
日本の AIR TIGHT は国内より海外でその評価は高い。ここでも人気を集めていた



AUDIO ANALOGUE のブースではしっとりとした音を聴かせていたが、その秘密はここに使われている英国 Tellurium Q 社の Silver Diamond Cable。特に低域の力強いパワー感が魅力だ



オーディオの講演や製品説明会がスタジアムの一部に設けられた模擬講演会場で行われていた



現地ロックミュージシャンによるライブパフォーマンスもあり人気を集めていたが、正直その音量と音質にはちょっと……。それでも周りには大勢の人が幾重にも取り囲んでいた



人気ブースでは入場時間を決めて定員のみを入れるというシステムを取っているところもあった





RD acoustic 社のディフューザーとスピーカー。なかなかユニークで面白い



ここでも Dan Dagostino の超弩級アンプの人气が高く、Wilson Audio のスピーカーで上質の音を奏でていた



今年新設されたヘッドホンコーナーでの final のヘッドホンブース、ポーランドの代理点 Fonnex は日本の Olasonic ブランドやオオアサ電子の Egretta スピーカーを扱っている。今年は新製品 D8000 の人気が高く試聴希望者が絶えなかった



こちらは上品なムードを演出した SENNHEISER のブース。やはりヘッドホンは若者に人気があった



小さな子供も若い女性もヘッドホン音楽に夢中。この幼い女の子は自らコンピュータの音楽を選曲しながら熱心に試聴していた



今回気になったヘッドホンはルーマニアの MEZE AUDIO 製 99 CLASSICS。なかなか自然な感じで嫌みの無い音は好感が持てた



入場者に無料で配布される美しいカタログ



会場のマップはもちろん、ショーの見どころなどお役立ち情報が満載

以上、大急ぎでのご紹介でしたが、このワルシャワにおけるオーディオショーの熱気を少しでも感じていただければレポーターとしてこれ以上の喜びはありません。